

2024年度

こども学科
講義計画集

— 第1学年 —

氏名

船橋情報ビジネス専門学校

〒273-0005 船橋市本町7-12-16

電話:047-425-1051

年間計画表

2024年度 (令和6年度) 年間計画表 学生用

4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1月	始業式	1水	水4回	1土	学校見学会	1月	月12回	1木	オープンキャンパス③	1日	1日	1火	火4回	1金	金8回	1日	科目終末試験	1水	元旦	1土	学校見学会	1土	科目終末試験
2月	新入生 オリエンテーション	2木	木4回	2日	科目終末試験	2火	火12回	2金		2月	白痴人	2水	水4回	2土	土4回	2月	月10回	2木		2日	科目終末試験	2日	
3月	憲法記念日	3金	学校見学会(保護者)	3水	水8回	3土	水13回	3土		3火	白痴人	3木	木3回	3日	文化の日	3火	火12回	3金		3月	月15回	3月	
4月		4土	みどりの日	4木	体育祭	4日	体育祭	4日		4水	F	4金	金4回	4月	振替休日	4水	水12回	4土		4火	火16回	4火	
5月		5日	こどもの日	5水	金12回	5金	金12回	5月		5木	B	5土	土5回	5火	火8回	5木	木12回	5金		5水	水16回	5水	
6月		6土	振替休日	6木	科目終末試験	6土	科目終末試験	6火	学校見学会	6金	台	6日	日6回	6水	水8回	6金	金13回	6土		6木	木	普	
7月		7日	月曜振替4回	7金	金8回	7日	日	7水	仕事の学び場	7土	学校見学会(保護者)	7月	月4回	7木	木8回	7土	土	7日	学校見学会	7金	金	追	
8月		8土	水5回	8木	休	8月	月13回	8木	仕事の学び場	8日	後	8火	火5回	8金	金9回	8日	日	8水	水13回	8土	土	卒	
9月		9日	木5回	9金	金9回	9火	火13回	9土		9月	月1回	9水	水5回	9土	土9回	9月	月11回	9木	木13回	9日	日	卒	
10月		10金	金4回	10土	土9回	10水	水14回	10日		10火	火1回	10木	木4回	10日	日	10火	火	10金	金14回	10月	月	卒	
11月		11土	休	11水	水9回	11木	木13回	11日	山の日	11金	水1回	11土	土5回	11月	月7回	11水	水	11土	土	11火	火	卒	
12月		12日	金1回	12水	水10回	12金	金13回	12月	振替休日	12土	土	12火	火	12日	日	12水	水	12土	土	12火	火	卒	
13月		13土	学校見学会	13木	木10回	13水	水	13日	受	13金	金	13土	土	13月	月	13水	水	13土	土	13火	火	卒	
14日		14火	3	14水	水9回	14木	木	14日	業	14土	土	14火	火	14月	月	14水	水	14土	土	14火	火	卒	
15月		15水	水6回	15木	木	15水	水	15日	上	15金	金	15土	土	15月	月	15水	水	15土	土	15火	火	卒	
16火		16木	木6回	16水	水	16木	木	16日	上	16金	金	16土	土	16月	月	16水	水	16土	土	16火	火	卒	
17水		17金	金5回	17木	木	17水	水	17日	上	17土	土	17火	火	17月	月	17水	水	17土	土	17火	火	卒	
18木		18土	学校見学会	18水	水	18木	木	18日	上	18金	金	18土	土	18月	月	18水	水	18土	土	18火	火	卒	
19金		19日	金2回	19水	水	19木	木	19日	上	19土	土	19火	火	19月	月	19水	水	19土	土	19火	火	卒	
20土		20月	月6回	20木	木	20土	土	20日	上	20金	金	20水	水	20月	月	20水	水	20土	土	20火	火	卒	
21日		21火	火6回	21金	金	21水	水	21日	上	21土	土	21火	火	21月	月	21水	水	21土	土	21火	火	卒	
22月		22水	水7回	22木	木	22土	土	22日	上	22金	金	22水	水	22月	月	22水	水	22土	土	22火	火	卒	
23火		23木	木7回	23水	水	23土	土	23日	上	23金	金	23水	水	23月	月	23水	水	23土	土	23火	火	卒	
24水		24金	金6回	24木	木	24土	土	24日	上	24金	金	24水	水	24月	月	24水	水	24土	土	24火	火	卒	
25木		25土	学校見学会	25水	水	25土	土	25日	上	25金	金	25水	水	25月	月	25水	水	25土	土	25火	火	卒	
26金		26日	金3回	26水	水	26木	木	26日	上	26金	金	26水	水	26月	月	26水	水	26土	土	26火	火	卒	
27土		27月	月7回	27木	木	27土	土	27日	上	27金	金	27水	水	27月	月	27水	水	27土	土	27火	火	卒	
28日		28火	火7回	28金	金	28水	水	28日	上	28土	土	28火	火	28月	月	28水	水	28土	土	28火	火	卒	
29月		29水	水8回	29木	木	29土	土	29日	上	29金	金	29水	水	29月	月	29水	水	29土	土	29火	火	卒	
30火		30木	木8回	30水	水	30土	土	30日	上	30金	金	30水	水	30月	月	30水	水	30土	土	30火	火	卒	
		31金	金7回			31水	水	31日	上			31木	木			31火	火			31土	土		

※年間講義回数
 月 30回
 火 31回
 水 32回
 木 30回
 金

1学年

本校の教育方針	1
評価について／出欠席ルール	3
FJBネットID登録とメールアドレス	4
実習室・インターネット使用上のルール・マナー	4
個人情報保護に関する基本方針	5
教育目標と検定スケジュール	6
保育のためのパソコン入門	杉山 剛・青木 耕大	7
教育実習事前事後指導	三田 麻矢佳	8
保育相談支援	三田 麻矢佳	9
生涯スポーツ	向家 真広	10
健康科学	向家 真広	11
健康(指導法)	向家 真広	12
音楽Ⅰ・Ⅱ	中川 菜穂・三田 麻矢佳・谷田 扶実子・桑代 笑 美・森 真理	13
日本国憲法	杉山 剛	15
幼児と人間関係	生越 雅志	16
人間関係(指導法)	生越 雅志	17
教育課程総論	生越 雅志	18
幼児と言葉	生越 雅志	19
言葉(指導法)	生越 雅志	20
社会福祉	津田 聡子・杉山 剛	21
教育心理学	杉山 剛	22
教育原理	生越 雅志	23
社会的養護Ⅰ	津田 聡子・杉山 剛	24
教職概論	生越 雅志	25
教育方法論	生越 雅志	26
保育の計画と評価	津田 聡子	27
保育内容総論(前期)	津田 聡子	28
保育内容総論(後期)	津田 聡子	29
マナー講座	長崎 佐由利	30

現場学習	中川 菜穂・津田 聡子・三田 麻矢佳	31
英会話	鳥居 高之・稲村 祥江	32
造形表現(指導法)	小倉 正巳	33
やってみなはれ演習 I・II	生越 雅志・三田 麻矢佳	34

本校の教育方針

船橋情報ビジネス専門学校
校長 鳥居 高之

教育理念「若者をハッピーに」

これが本校の教育理念です。しかし幸せの形は人によって違いますし、卒業式で「はいどうぞ」と手渡しできるものではありません。在学中だけハッピーならよい訳でもありません。その後こそ重要です。従って私たち教職員の使命とは、学生のみなさんが職業人・社会人として豊かな人生を送るために、その土台作りのお手伝いをするという事になります。あくまでも主役は学生本人です。また社会に出てハッピーになる最低条件としては、大人として自立していなければなりません。その自立に欠かせないのが自律です。自律とは自分と闘うということです。ただ欲望や本能のままに行動するなら動物と同じです。すなわち、「自律 → 自立 → ハッピー」という順番です。私達もみなさんのお手伝いに全力を尽くしますが、自立した大人になる独力を忘れないでください。

勉強は教わるものではない

初年度のみ先生方は手取り足取り親切に教えてくれます。高校までに自分なりの勉強方法が身に付いていない人もいますからです。しかし2年目からは最後まで教えません。「まずは自分で考えてみなさい」と指導します。なぜでしょうか。将来みなさんが就職する会社に、そんな面倒見のよい上司や先輩がいるのでしょうか。みな仕事を抱えています。社会に出れば自分で勉強するのが当たり前です。質問・相談もできますが、自分で調べて考えるのが大原則です。その姿勢を在学中に身に付けてください。2年生になって先生の態度が変わるのはそのためです。急に厳しくなったと勘違いする学生がいますが、みなさんの真の成長を望んでいるのだということに気付いて欲しいです。

またスピード制限もしていません。もし授業の内容を既に理解していると感じる人は申し出てください。指導教員がそう判断すれば別メニューを設定します。クラス全体に歩調を合わせる必要はありません。どんどん前に進んでください！

人間教育の重視

人と接するのが苦手だからコンピュータの仕事に就きたいという学生がいます。大きな勘違いです。コンピュータの向こうには生身の人間がいます。どんなビジネスでも主役は人です。技術や資格ではなく人が仕事をするのです。そして人は一人では生きて行けない生き物です。仕事にせよ日常生活にせよ、常に他者との係わりの中で生きています。本校は単なる就職予備校ではないのです。人間教育を技術教育以上に重視しています。特に次の2つを心がけて欲しいです。

元気に明るく挨拶（あいさつ）

明るい人はみんなに好かれます。明るさの第一歩は、自分から元気に挨拶することです。そのような新入社員は職場でも愛されます。学校の先生方や来校されるお客様に練習台になっていただき、どんどん自分から挨拶しましょう。

3つの守り

本校がとても大切にしている3つの守りとは、「時間を守る、約束を守る、ルールを守る」です。単純ですが、当たり前のことを当たり前にやるのは実は大変なことです。自律できない人は自分と闘えません。つまり自立もできません。

「ルールを守る」に関しては考えて欲しいことがあります。学校生活だけでなく今後の生き方にも係わることです。ルールや法律を守るのは、叱られない罰せられないためでしょうか。世の中を見渡すと、法に触れなければいい、見つからなければいい、と考える者もいます。真の大人になり損ねた、自己中心のニセ大人です。みなさんには、「そんなことをしたら人として、大人として恥ずかしい」と自分を律して行動できる、良識ある職業人・社会人になって欲しいと願っています。以下校内のルールやマナーについて、少し補足しておきます。

通学

- (1) バイク・自動車通学全面禁止。
- (2) 自転車は学生課に登録し所定の駐輪場所を利用。

エレベーター

- (1) 学生はドアの注意書きに従うこと。下りは全面禁止。
- (2) 授業開始前および終了後の5分間は使用禁止。(教員優先)
- (3) 3号館は全面使用禁止。

禁煙

教職員、学生、成年、未成年者にかかわらず校内及び天沼公園・学校周辺は全面禁煙。

※船橋駅前から本校までの路上喫煙は条例により禁止され罰金の対象です

交通ルール

3号館前的大通りは横断絶対禁止。過去に死亡事故あり。横断歩道を使うこと。

重大なルール違反やマナー違反をした場合は、校長面接の上、停学や退学処分になることもありますので、学生の本分を守り勉学や学校生活に励んでください。なお本校では、学生が直接メールを校長宛に出すことができます。何か要望や相談があれば、いつでもメールしてください。 takatorii@mitsuhashi.ac.jp

以上

評価について

- (1) 評価とは成績証明書にS～Dで表現され記載される、その科目の最終的な成績のことを指す。
- (2) 評価は、合計点を用いて算出する。合計点とは、定期試験の素点に授業態度や出席状況、課題提出等の平常点を合計して算出したものである。

評価は以下の基準を用いる。(点または%)

S	90以上
A	80～89
B	50～79
C	40～49
D	39以下

- (3) 評価Dの者は、単位未修得者として処理される。
- (4) 評価Dの者には所定の手続きの後、再試験を実施する。ただし、再試験は特別の場合を除き、レポートに代替する。再試験に合格した場合その科目の評価はCとする。(特別な努力が認められたものは、B評価になることもある。)

GPA(Grade Point Average)

GPAとは、学生の成績の平均値を表したもので学期ごとにGPAを算出する。算出方法は以下の通り科目の評価(S～Dの5段階)に応じて、4.0～0.0の得点(GP)を設定し、科目ごとの得点(GP)に科目の単位数をかけた値を全履修科目分合算し、その値を履修科目の総単位数で割り、少数点第二位を四捨五入したものをGPAとする。

なお、GPAを算出するタイミングは各学期の成績発表時点とする。その時点で評価がDの科目のGPは、後日再試験に合格していても0.0となる。

GPA = 【GP × 履修科目の単位数】の合計 / 履修科目の総単位

出欠席ルール

1つの授業は90分、出欠席のカウントは45分×2コマとして扱う。カウントは以下の通りとする。

- (1) 遅刻3回で欠課1回、欠課6回で1日の欠席とみなし、次の条件で換算する。
 - ・SHRの遅刻及び欠席で1限の「遅刻1」
 - ・授業開始15分までの入室で「遅刻1」
 - ・授業開始15～45分までの入室で「欠課1」
 - ・授業開始45～60分までの入室で「欠課1＋遅刻1」
 - ・授業開始60分以降の入室で「欠課2」
- (2) 学期内(前後期別)に5日の欠席がある場合は進級を認めない。
1科目につき1/3の欠課がある場合は進級を認めない。
スクーリングや科目終末試験に遅刻欠席をした場合は進級を認めない。
- (3) 交通機関の乱れによる遅刻の場合は必ず「遅延証明」をもらう。ただしバスは適用外。
遅刻の場合は事務所で遅刻カードをもらう。職員室にすみやかに提出し授業に合流すること。

レベル	欠席日数	学校側からのアクション
1	欠席1日(欠課6)	無し
2	欠席2日(欠課12)	【注意】担任から学生へ口頭で注意
3	欠席3日(欠課18)	【警告】学生と面談・保護者へ電話連絡
4	欠席4日(欠課24)	【最終警告】学生と面談・保護者へ電話連絡・書面郵送
5	欠席5日(欠課30)	【進級不可】学生・保護者と三者面談 【校長面談】後日校長と面談をおこなう

卒業認定

以下の条件に基づき学校長と教職員による卒業判定会議を経て学校長に認められた者について卒業を認定する。

- (1) 履修した全ての科目において単位修得していること。
- (2) 原則として各年度において年間55日以上欠席がないこと。

FJBネットID登録とメールアドレス

1. ユーザID登録について

本校では、学生1人ひとりにユーザIDを発行しております。このIDでログインすると、学校内のネットワーク環境が利用できます。課題の保存、教材の受け渡し、メールでのコミュニケーションなどに活用して下さい。

2. メールアドレスについて

(1) 科によってメールアドレスが設定されています。

詳細は担任から説明があります。

(2) 「FJBインターネット&イントラネット」画面の「先生へのメール」をクリックして電子メールを活用して下さい。

(3) Webメールでの各個人に与えられている容量は50MBまでです。整理せずに企業からの大切なメールを受理できないケースがありました。不必要なメールはこまめに消去してください。

3. 緊急連絡について

クラスの諸連絡、台風や大雪等の休校等の連絡はグループコミュニケーションツールを使用します。(スマートフォンでも使用可能)各自、常に最新の投稿を確認するようにしてください。投稿を確認していない場合、自己責任です。またツールを使用する環境がない場合は担任に申し出てください。

実習室・インターネット使用上のルール・マナー

1. 実習室の放課後開放について

放課後、午後6時まで実習室を開放します。開放時間中に清掃(清掃時間を入り口に掲示)が入ります。その際は一度退出をお願いします。気持ちよく使えるよう、ご協力ください。

2. 実習室に、飲食物は持ち込んではいけません

パソコンは精密な電子機械です。水、粘着質の糖分、細かなゴミ、小さな金属物などを嫌います。実習室では、飲食行為も持ち込みも、厳禁です。

3. 本校のパソコンに、ゲーム(その他ソフト)をインストールしてはいけません

雑誌の付録のCD-ROMを持ち込んだり、インターネットでダウンロードしたりして、ゲームなどのソフトを本校のパソコンにインストールしてはいけません。

4. USBなどの記憶媒体は必ずウイルスチェックをするようにして下さい

記憶媒体を本校で使用する場合は、監督の先生に申し出てウイルスチェックをしてもらって下さい。その後、許可します。

5. 実習ファイルを保存するための領域をIドライブに用意してあります

必要なファイルのみ保存し、常に整理を心がけてください。ゲームファイル、過度な容量のファイルの保存を禁止します。(卒業研究等、必要な場合を除く)

6. インターネットを利用して、画像、音楽などを不正使用してはいけません

画像・音楽データなどはすべて、著作権があります。さらに、人物の写真には肖像権、アイドルの写真にはパブリシティ権があります。個人的な利用の範囲を超えて、使用してはいけません。HPやブログに貼り付けることはこれらの権利の侵害で、犯罪行為です。

7. インターネットに、非常識な書き込みをしてはいけません

インターネットの世界は、限られた若者のギャグやシャレの場ではありません。善意ある人達の、世界的に開かれた場です。匿名性を利用した破廉恥な書き込みは、卑怯者の行為です。一見匿名ですが、アクセス記録は残りますから、必ず追跡されます。

以上の約束が守れない場合は、指導の対象となります。

また、悪質な場合は、停学・退学を含めた処置を検討します。

学校法人三橋学園 船橋情報ビジネス専門学校
個人情報保護に関する基本方針（プライバシーポリシー）

船橋情報ビジネス専門学校

船橋情報ビジネス専門学校は、教育機関としての社会的責任を果たすために、以下の個人情報保護方針(プライバシーポリシー)を定め、教職員およびその他の関係者に周知徹底し、これを実行します。

1. 個人情報の取り扱いについては、教育上または業務上必要な範囲内において利用目的をできるだけ特定した上で、権限を与えられた者のみに許可します。
2. 個人情報に対する不正アクセス、紛失、破壊、改ざんおよび漏えい等を防止するために、適切な安全対策を講じます。
3. 取得した個人情報は、以下の目的に利用します。
 - (1) 本校の授業、検定試験、行事等の通知・連絡・管理を行うため
 - (2) 就職指導および就職活動支援を行うため
 - (3) 入学相談および募集活動を行うため
 - (4) 入学選考試験業務を行うため
 - (5) 各種証明書等の発行業務を行うため
 - (6) 上記のほか、教育上必要と判断される業務や活動を行うため
4. 本校は以下のような場合において、必要とされる範囲内で個人情報を関係者または第三者に提供もしくは公開することがあります。
 - (1) 在学生の保護者に対し、本人の学業成績、出欠席状況、資格取得状況等の提供
 - (2) 在学生もしくは卒業生の出身校に対し、本人の出欠席状況、資格取得状況、就職状況等の提供
 - (3) 学内での定期試験合格者、資格取得者、就職内定者情報等の公開
 - (4) 就職指導室における、在学生もしくは卒業生の就職先、就職活動記録等の公開
 - (5) 本校への入学希望者に対する、在学生もしくは卒業生の就職または就職内定先情報および、学校案内や本校ホームページに記載されている情報等の提供
 - (6) 上記のほか、本校の教育上もしくは業務上必要と判断される場合
5. 上記以外の利用目的で個人情報を収集する場合は、別途本人および保護者に通知します。
6. 以上のように、本校による関係者および第三者への個人情報の提供は、教育上もしくは業務上必要であると判断した上で行っておりますが、希望しない場合は所定の手続による請求をすることで停止できます。

個人情報の開示、訂正、利用停止の請求および取り扱いに対する問い合わせは下記までお願いします。

校長 鳥居 高之
047-425-1051
takatorii@mitsuhashi.ac.jp

こども学科	1年
-------	----

【前期】

科目	保育のためのパソコン入門	分類	専門、必修科目
担当	杉山 剛・青木 耕大		
テキスト (出版社)	保育者のためのパソコン講座(萌文書林)		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
フォルダやファイル操作などのパソコンの操作や、Officeソフトの基本操作を学ぶ。
2. 授業の目標(検定取得など)
パソコンの仕組みを知り、WordやPowerPointを使い簡単な書類を作ることができる。
3. 注意点・要望
授業内での課題の成果で評価します。
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、タイピング練習、ホームポジション
2	基本的な操作を修得しよう	アプリケーションソフトの起動と終了、ウィンドウ操作、文字の入力など
3	フォルダーとファイルになれよう	ドライブ名、ファイルのしくみ、フォルダーの操作、ファイル名の変更
4	かんたんなおたよりを作成しよう 1	ワープロソフトの機能と操作の基本、おたよりの作成
5	かんたんなおたよりを作成しよう 2	ワープロソフトの機能と操作の基本、おたよりの作成
6	かんたんなおたよりを作成しよう 3	ワープロソフトの機能と操作の基本、おたよりの作成
7	図形を活用しよう 1	動物やお花などイラストの作成
8	図形を活用しよう 2	動物やお花などイラストの作成
9	図形を活用しよう 3	図形を使った地図を作成
10	図形を活用しよう 4	図形を使った地図を作成
11	ビジュアルコンテンツをつくろう	表を作成し、図や写真を挿入する
12	図表が入ったおたよりを作成しよう 1	イラストの入った案内カードや、複雑なレイアウトのおたよりを作成
13	図表が入ったおたよりを作成しよう 2	イラストの入った案内カードや、複雑なレイアウトのおたよりを作成
14	作表とかんたんな計算をしよう	表計算ソフトの機能と操作の基本、クラス表を作成
15	児童台帳を作成しよう	児童台帳を作成する
16	グラフと計算式を活用しよう	身体計測記録表を作成する

備考	
----	--

こども学科	1年
-------	----

【後期】

科目	教育実習事前事後指導	分類	専門、必修科目
担当	三田 麻矢佳		
テキスト (出版社)			
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	1
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
幼稚園教育実習へ向けての心構えと実践を学ぶ
2. 授業の目標(検定取得など)
幼稚園教諭二種免許状取得
3. 注意点・要望
主体的に授業に臨んでほしい
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	保育者に必要な資質能力	1階保育室に見学実習(0,1歳児・2歳児)/ミルクづくり演習
2	保育者に必要な資質能力	清潔の必要性和習慣について学ぶ 内的・外的環境
3	保育者に必要な資質能力	乳児期の機能の発達と援助方法について学ぶ
4	保育者に必要な資質能力	実践を通して実習生としての心構えを身につける
5	保育者に必要な資質能力	実践を通して実習生としての心構えを身につける
6	保育者に必要な資質能力	保育・教育の実践を支える保育者の役割
7	保育の計画	保育の全体的な計画と指導計画
8	保育の計画	指導計画の作成
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		

備考	幼稚園・保育園にて保育経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。
----	-------------------------------------

こども学科	1年
-------	----

【後期】

科目	保育相談支援	分類	専門、必修科目
担当	三田 麻矢佳		
テキスト (出版社)			
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	1
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
教育実習事前事後指導に準じ、実習場面における相談の心構えと実践を学ぶ
2. 授業の目標(検定取得など)
保育士
3. 注意点・要望
主体的に授業に臨んでほしい
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	教育実習事前事後指導に準じる	教育実習事前事後指導の授業内容から、様々なシミュレーションを行う
2	〃	〃
3	〃	〃
4	〃	〃
5	〃	〃
6	〃	〃
7	〃	〃
8	〃	〃
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		

備考	幼稚園・保育園にて保育経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。
----	-------------------------------------

こども学科	1年
-------	----

【前期】

科目	生涯スポーツ	分類	専門、必修科目
担当	向家 真広		
テキスト (出版社)	講義ごとに必要に応じて資料を配布する。		
参考資料	生涯スポーツ実践論-生涯スポーツを学ぶ人たちへ- 改訂2版、幼児期の運動に関する指導参考資料(文部科学省)など		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	30%	20%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
運動やスポーツを生涯にわたって行う意味や意義を理解し、自ら身体を動かす体験をして実践と共に学ぶ。
2. 授業の目標(検定取得など)
スポーツに関する基礎的な知識・実践方法を習得し、実生活で活かせるようになる。
3. 注意点・要望
受講生は毎回運動を行う前提の服装で受講すること。授業内容は、当日の状況に応じて柔軟に対応するものとします。
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	ガイダンス/アイスブレイキング・コミュニケーション	本授業の概要や進め方、注意点、要望などについてのガイダンス。受講生、担当教員も含めた自己紹介、情報交換 他。
2	生涯スポーツの歴史と定義	幼児教育で、なぜ運動(スポーツ)が重要であるのかを歴史と定義の観点から学び、生涯スポーツの現状の理解を深める。
3	様々なスポーツ	世界にある様々なスポーツや運動、日本のスポーツや運動について学び、実際に活動する。
4	身体を使った運動遊び①	用具(遊具や道具等)を用いない運動を経験し、実践方法について学ぶ。また、その運動の必要性や効果についても理解し、実感する。
5	身体を使った運動遊び②	用具(遊具や道具等)を用いない運動を経験し、実践方法について学ぶ。また、学んだことを生かして、実践していく。
6	生涯スポーツとヘルスプロモーション	スポーツと健康の関連性を学び、健康を維持するためにスポーツや運動が担う役割に関する理解を深める。
7	生涯スポーツと青少年のスポーツ参加	青少年にとってのスポーツの役割を学び、スポーツの必要性や価値についても理解を深める。
8	運動の基本動作①	子どもの運動の基本動作を知り、その動作について理解を深め、実践する。
9	運動の基本動作②	子どもの運動の基本動作を知り、その動作について理解を深め、実践する。
10	発育発達とスポーツ(運動遊び)①	生まれてから、小学生低学年までの発達段階に応じた運動を学び、実際に経験する。
11	発育発達とスポーツ(運動遊び)②	生まれてから、小学生低学年までの発達段階に応じた運動を学び、実際に経験する。
12	生涯スポーツと高齢者のスポーツ参加	高齢社会の現状を踏まえた上で、高齢者のスポーツについて理解を深める。
13	生涯スポーツとニュースポーツ	「ニュースポーツ」という概念を知り、様々なスポーツへの理解を深める。
14	生涯スポーツと障害者のスポーツ	障害者スポーツの歴史を知り、価値観を広げて、障害者スポーツへの理解を深める。
15	現場学習(実際の現場を体験して)	幼児の運動現場を訪問し、園庭を用いた運動遊びを経験する。また、現場での危機管理に関する予測観点も学ぶ。

備考	現在、本校姉妹園にて幼児体育を指導している教員が、その経験を活かして講義・指導を行う。
----	---

こども学科	1年
-------	----

【後期】

科目	健康科学	分類	専門、必修科目
担当	向家 真広		
テキスト (出版社)	講義ごとに必要に応じて資料を配布する。		
参考資料	生涯スポーツ実践論-生涯スポーツを学ぶ人たちへ- 改訂2版、幼児期の運動に関する指導参考資料(文部科学省)など		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	1
	0%	30%	10%	10%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
生活の中での運動(スポーツ)との関連性を確認し、健康や体力に関する知識や関心を高め、スポーツの意味や意義を学ぶ。
2. 授業の目標(検定取得など)
保育の現場で活かせるような運動(スポーツ)や健康に関わった知識や技能を習得する。
3. 注意点・要望
受講生は毎回運動を行う前提の服装で受講すること。授業内容は、当日の状況に応じて柔軟に対応するものとします。
4. 関連科目
幼児体育に関連する全科目

	テーマ	内容
1	スポーツの概念	スポーツの本質的な意味や意義、スポーツの価値について学ぶ。
2	社会生活の変化とスポーツ	社会生活の変化に伴うスポーツの価値や意義について学ぶ。
3	スポーツ・レジャー振興の現状	社会におけるスポーツ参加の現状を知り、レクリエーションスポーツやレジャースポーツに関しての理解を深める。
4	健康の定義とその変遷	WHOの健康の定義から現在に至る健康の意味、意義の変化を知り、健康に関する理解を深める。
5	健康・体力と運動	健康が体力や運動と密接に関わっていることを学び、運動の実践をして健康を体感する。
6	こどもの健康・体力と運動	こどもの健康が体力や運動と密接に関わっていることを学び、運動の実践をして健康を体感する。
7	生活における運動・トレーニング	生活における運動の役割や意義を学び、トレーニングに関する知識や理解を深める。
8	健康科学まとめ	健康科学がスポーツや運動との深い関わりがあることを確認し、今後の実践現場でどう活かしていくのかを考える。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

備考	現在、本校姉妹園にて幼児体育を指導している教員が、その経験を活かして講義・指導を行う。
----	---

こども学科	1年
-------	----

【後期】

科目	健康(指導法)	分類	専門、必修科目
担当	向家 真広		
テキスト(出版社)	健康理論編(近畿大学九州短期大学)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	1
	50%	0%	0%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。
2. 授業の目標(検定取得など)
保育における教材等の活用及び作成と、環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。特に子どもの生活と遊びにおける様々な遊具や用具、素材や教材等の特性の理解と、それらの活用や作成に必要な知識及び技術を身につける
3. 注意点・要望
見立てやごっこ遊び、劇遊び、運動遊び等における体験を多く取り入れるので、自身も楽しんでほしい
4. 関連科目
幼児体育に関わる全科目

週	テーマ	内容
1	現代の健康	現代人の健康と生活 乳幼児期の発達課題とその特徴
2	健康と遊び	乳幼児期・児童期の子どもの健康な生活と遊び
3	領域「健康」とは	領域「健康」に関する保育内容とその方法
4	健康指導のポイント	園における健康づくりのための保育指導とその援助のしかた
5	健康管理	園における保健・衛生・安全の管理とその問題点
6	年間視点の健康指導	健康保育における四季の生活と遊び
7	1日視点の健康指導	保育の中の健康行事と安全保育 健康生活と遊びの科学
8	これからの健康課題	新しい時代を生きる子どもと健康
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

備考	現在、本校姉妹園にて幼児体育を指導している教員が、その経験を活かして講義・指導を行う。
----	---

こども学科	1年
-------	----

【前期】

科目	音楽 I	分類	専門、必修科目
担当	中川 菜穂・三田 麻矢佳・谷田 扶実子・桑代 笑美・森 真理		
テキスト (出版社)	バイエル 音楽ピアノ教本 ポケットいっぱいのおた		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	20%	0%	40%	20%	0%	20%	100%		

1. 授業の概要
・ピアノ演習の基礎 ・基本コード演習 ・子どもと音楽の考え方
2. 授業の目標(検定取得など)
・楽譜を理解し月ごとに指定された課題曲を仕上げ演奏する ・子どもの歌う歌を覚え楽しく歌う
3. 注意点・要望
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	音楽授業概要	子どもと音楽の考え方を学び、音楽の大切さ、もたらす影響を考える
2	ピアノ演習 ・子どもの歌	ピアノ演習の基礎練習 ・子どもの歌を覚え歌う
3	ピアノ演習 ・子どもの歌	ピアノ演習の基礎練習 ・子どもの歌を覚え歌う
4	ピアノ演習 ・子どもの歌	ピアノ演習の基礎練習 ・子どもの歌を覚え歌う
5	ピアノ演習 ・子どもの歌	ピアノ演習の基礎練習 ・子どもの歌を覚え歌う
6	ピアノ演習 ・子どもの歌	ピアノ演習の基礎練習 ・子どもの歌を覚え歌う
7	ピアノ演習 ・子どもの歌	ピアノ演習の基礎練習 ・子どもの歌を覚え歌う
8	ピアノ演習 ・子どもの歌	ピアノ演習の基礎練習 ・子どもの歌を覚え歌う
9	ピアノ演習 ・子どもの歌	ピアノ演習の基礎練習 ・子どもの歌を覚え歌う
10	ピアノ演習 ・子どもの歌	ピアノ演習の基礎練習 ・子どもの歌を覚え歌う
11	ピアノ演習 ・子どもの歌	ピアノ演習の基礎練習 ・子どもの歌を覚え歌う
12	ピアノ演習 ・子どもの歌	ピアノ演習の基礎練習 ・子どもの歌を覚え歌う
13	ピアノ演習 ・子どもの歌	ピアノ演習の基礎練習 ・子どもの歌を覚え歌う
14	音彩の会の組み立て	コンサートに向けて演奏の仕上げ
15	音彩の会	コンサートホールで演奏し音楽のもたらす美しい音色の空間をみんなで共感しあう
16		

備考	
----	--

こども学科	1年
-------	----

【後期】

科目	音楽Ⅱ	分類	専門、必修科目
担当	中川 菜穂・三田 麻矢佳・谷田 扶実子・桑代 笑美・森 真理		
テキスト (出版社)			
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	20%	0%	40%	20%	0%	20%	100%		

1. 授業の概要
ピアノ演習の基礎を学ぶ・季節の歌を通して子どもと音楽の関係性を学ぶ
2. 授業の目標(検定取得など)
読譜力をつけ、指定された課題曲を仕上げ演奏する・子どもの歌を覚え歌唱する
3. 注意点・要望
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	子どもと音楽・ピアノ演習	子どもと音楽の考え方を発達の上からも学び、音楽の大切さ、もたらず影響を考える
2	ピアノ演習・季節の歌	個々に必要なピアノスキルを身に付けるためのレッスンをを行う・歌唱
3	ピアノ演習・季節の歌	個々に必要なピアノスキルを身に付けるためのレッスンをを行う・歌唱
4	ピアノ演習・季節の歌	個々に必要なピアノスキルを身に付けるためのレッスンをを行う・歌唱
5	ピアノ演習・季節の歌	個々に必要なピアノスキルを身に付けるためのレッスンをを行う・歌唱
6	ピアノ演習・季節の歌	個々に必要なピアノスキルを身に付けるためのレッスンをを行う・歌唱
7	ピアノ演習・季節の歌	個々に必要なピアノスキルを身に付けるためのレッスンをを行う・歌唱
8	ピアノ演習・季節の歌	個々に必要なピアノスキルを身に付けるためのレッスンをを行う・歌唱
9	ピアノ演習・季節の歌	個々に必要なピアノスキルを身に付けるためのレッスンをを行う・歌唱
10	ピアノ演習・季節の歌	個々に必要なピアノスキルを身に付けるためのレッスンをを行う・歌唱
11	ピアノ演習・季節の歌	個々に必要なピアノスキルを身に付けるためのレッスンをを行う・歌唱
12	ピアノ演習・季節の歌	個々に必要なピアノスキルを身に付けるためのレッスンをを行う・歌唱
13	ピアノ演習・季節の歌	個々に必要なピアノスキルを身に付けるためのレッスンをを行う・歌唱
14	ピアノ演習・季節の歌	個々に必要なピアノスキルを身に付けるためのレッスンをを行う・歌唱
15	ピアノ演習・季節の歌	個々に必要なピアノスキルを身に付けるためのレッスンをを行う・歌唱
16	音彩の会組み立て	コンサートに向けて演奏の仕上げ トーンチャイム演奏法仕上げ
17		

備考	幼稚園・保育園にて保育経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。
----	-------------------------------------

こども学科	1年
-------	----

【前期】

科目	日本国憲法	分類	専門、必修科目
担当	杉山 剛		
テキスト (出版社)	日本国憲法(近畿大学九州短期大学)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	50%	0%	0%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
教育者として最低限知っておきたい憲法の知識について学ぶ
2. 授業の目標(検定取得など)
子どもを守る知識、教育を受ける権利、法の下での平等・自由、平和について教育者としての見解を持つ
3. 注意点・要望
専門用語が多いので難しいと感じるかもしれないが、法知識がある教育者を目指してほしい
4. 関連科目
保育士免許関連科目

週	テーマ	内容
1	現代の憲法	憲法とは何か 日本国憲法の形式と基本原理
2	国民主権と象徴天皇	国民主権の原理・理念とその具体化 天皇の地位と国事行為
3	基本的人権1	基本的人権の原理 基本的人権の限界 包括的基本権
4	基本的人権2	精神的自由権(思想・良心・信教・表現・学問の自由)
5	基本的人権3	経済的自由権(職業選択・移住・移転の自由及び財産権の保障)
6	基本的人権4	社会権(生存権・教育を受ける権利・労働基本権)
7	基本的人権5	人身の自由(基本原則・被疑者の権利・拷問残虐な刑罰の禁止・刑事被告人の権利)
8	基本的人権6	国務請求権(裁判を受ける権利・賠償請求権・刑事補償請求権・請願権)
9	基本的人権7	参政権(参政権の意味・選挙法の基本原則)
10	基本的人権8	国民の義務(教育を受けさせる義務・勤労の義務・納税の義務)
11	統治機構1	統治機構の原理 国会(地位・構成・機能・運営)
12	統治機構2	内閣(議院内閣制・内閣の組織・内閣の機能)
13	統治機構3	裁判所(司法権・裁判所の組織・裁判所の機能)
14	地方自治	地方自治の本旨 地方公共団体 組織と権能
15	憲法改正	憲法改正の手続きと限界 改正をめぐる動き
16	民法も含めた教育者としての知見	法で子どもをどこまで守れるか

備考	短大で同科目の指導経験がある教員が、その経験を活かして講義を行う。
----	-----------------------------------

こども学科	1年
-------	----

【後期】

科目	幼児と人間関係	分類	専門、必修科目
担当	生越 雅志		
テキスト (出版社)	幼児と人間関係		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	1
	0%	25%	25%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

領域「人間関係」に関する知識を得、子ども個人の成長と、仲間集団の成長との双方に配慮しながら具体的な指導を行う実践力の基礎を培う

2. 授業の目標(検定取得など)

①幼児を取り巻く人間関係の現状を把握し、支援が必要なポイントを理解する。②子どものライフコースにおける人と関わる力の重要性を理解する。③子どもの自律性と集団のなかでの育ちについて理解し、支え合う仲間集団の条件を理解する。

3. 注意点・要望

他の人々と親しみ、支えあって生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養うことのできる保育者を目指します

4. 関連科目

保育士免許関連科目

週	テーマ	内容
1	領域「人間関係」	保育の基本と領域「人間関係」 子どもを取り巻く社会の状況
2	領域「人間関係」	領域「人間関係」の「ねらい及び内容」の取扱い
3	集団で育む人間関係1	0・1・2歳児における人との関りの発達と保育者の援助
4	集団で育む人間関係2	3・4・5歳児における人との関りの発達と保育者の援助
5	人間関係を育む基礎	愛着形成の理論と実際 子どもの自立心 子どもの自己主張と自己発揮
6	事例による人間関係	いざこざ・けんかなどのトラブル 共感・思いやり 道徳性・規範意識
7	保育者の役割	子ども同士のコミュニケーション コミュニケーション能力を育てる保育者の関わり
8	人間関係における個人差	個と集団の育ち 子どもを取り巻く人間関係
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		

備考	
----	--

こども学科	1年
-------	----

【後期】

科目	人間関係(指導法)	分類	専門、必修科目
担当	生越 雅志		
テキスト(出版社)	幼児と人間関係		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	1
	0%	25%	25%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。

2. 授業の目標(検定取得など)

保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する

3. 注意点・要望

人との豊かな「かかわり」を育てる保育者としての役割を理解し、視点を養うことを目指すので、自らのコミュニケーション力が向上するように努めること

4. 関連科目

保育士免許関連科目

週	テーマ	内容
1	人間関係の概要	現代社会の子どもを取り巻く今日的課題 領域「人間関係」と他領域との関連
2	発達段階における人間関係	乳幼児の発達と人間関係 遊びの中で育つ人間関係
3	保育者の視点1	幼児期の環境構成や人とのかかわり 保育者に求められている人間関係
4	保育者の視点2	特別な支援を必要とする子どもと他の子どもがともに育ち合うためのかかわり
5	幼稚園・保育園・小学校との連携	さまざまな人々との交流と幼・保・小の交流活動の実践
6	保護者の視点	就学前の子どもの育ちを支える 保育者と保護者の人間関係
7	グローバル社会への対応	子育て支援や預かり保育での工夫 多文化保育と人間関係
8	指導計画	「人間関係」の指導計画
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		

備考	
----	--

こども学科	1年
-------	----

【前期】

科目	教育課程総論	分類	専門、必修科目
担当	生越 雅志		
テキスト (出版社)	あたらしい幼児教育課程総論(同文書院)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	25%	25%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

教育課程とは何か、その意義と方向をつかみながら様々な教育課程を学び、指導計画を作成できる能力を養う

2. 授業の目標(検定取得など)

教育課程の組み方で、その教師の力量が判断され、子どもの成長も決まることを念頭に、自分らしい指導計画を立案できる

3. 注意点・要望

自分のやりたい教育・保育を探求する中で、自分と違う教育課程も受け入れる姿勢を持つこと

4. 関連科目

教育実習・保育実習

週	テーマ	内容
1	幼児期の特徴	乳幼児期の発達 幼児期の発達課題 生涯学習における幼児期の意義
2	教育課程の意義と方向	教育課程の概念
3	幼稚園教育と保育所保育	幼稚園と保育所の基本的な性格・関係、保育のあり方、その思想と現実
4	教育課程の基準	教育課程に関する法則 幼稚園教育課程の基準の変遷
5	幼児教育課程の基本1	環境を通して行う教育 幼児期にふさわしい生活の展開
6	幼児教育課程の基本2	遊びを通しての総合的な指導 一人一人の発達の特性に応じた指導
7	基礎となる幼児の姿	「遊び」とは何か 「楽しさ」をどうとらえるか
8	目的・目標・ねらい・内容1	目的・目標・ねらいの意味 幼稚園教育の目的と目標
9	目的・目標・ねらい・内容2	園の教育目標 ねらい・内容とその領域
10	教育課程の編成と指導計画の作成1	教育課程編成の手順 「指導」の意義
11	教育課程の編成と指導計画の作成2	指導計画の意義 指導計画の作成
12	教育課程の評価	教育評価の意義 指導計画と指導の評価
13	事例1	A園の教育課程
14	事例2	B園の教育課程と長期指導計画
15	事例3	C園の教育課程・指導計画と特色ある年間計画
16		

備考	
----	--

こども学科	1年
-------	----

【後期】

科目	幼児と言葉	分類	専門、必修科目
担当	生越 雅志		
テキスト (出版社)	こどもと言葉<新訂第2版>		
参考資料	保育士養成課程 保育相談支援		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	1
	0%	25%	25%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために専門的事項に関する知識を身に付ける
2. 授業の目標(検定取得など)
人間にとっての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について、説明できる。言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。児童文化財(絵本・物語・紙芝居等)について、基礎的な知識を身に付ける。
3. 注意点・要望
経験したことや考えたことなどを自分なりに言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養わせることを勉強します。自らどんな言葉を選び、どのような態度で聞か探求してほしい。
4. 関連科目
保育士免許関連科目

週	テーマ	内容
1	言葉の定義	言葉が人間生活の中で果たす役割・機能 乳幼児期の言葉の特色
2	言葉と発達	子どもの発達と言語の発達 環境
3	子どもの言葉の源泉	言葉の面にあらわれた問題の理解と園における対応
4	幼稚園教育要領・保育所保育指針	領域「言葉」のねらいと内容
5	幼稚園教育要領・保育所保育指針	領域「言葉」の具体的内容
6	言葉における保育者の役割	それぞれの年齢の子どもたちと保育者のかかわり
7	言葉遊び	お話・絵本・紙芝居・パネルシアター
8	言葉まとめ	言葉の育ち(言語発達)をとらえる視点
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		

備考	
----	--

こども学科	1年
-------	----

【後期】

科目	言葉(指導法)	分類	専門、必修科目
担当	生越 雅志		
テキスト (出版社)	領域「言葉」入門		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	1
	0%	25%	25%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。
2. 授業の目標(検定取得など)
保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する
3. 注意点・要望
言葉を通じ、子どもの生活と遊びにおける他者(保育士等や他の子ども)との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識及び技術を学ぶので、実際の保育士がどのような言葉を選び保育しているかをつかんでほしい
4. 関連科目
保育士免許関連科目

週	テーマ	内容
1	言葉の指導とは1	「ことば」指導の意義と目標
2	言葉の指導とは2	「ことば」指導のための基礎的な知識
3	集団で育む言葉の指導	集団保育における保育者の言語的応答性
4	言葉指導の留意点1	保育者の話し方・聞き方
5	言葉指導の留意点2	ことばに障害を持つ子どもへの配慮
6	読み聞かせ指導法	絵本の役割と「読み聞かせ」の意味 集団への読み聞かせ
7	絵本の選定基準1	すぐれた絵本と絵のあり方
8	絵本の選定基準2	絵本の分類とその他の言語資料
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		

備考	
----	--

こども学科	1年
-------	----

【前期】

科目	社会福祉	分類	専門、必修科目
担当	津田 聡子・杉山 剛		
テキスト (出版社)	コメディカルのための社会福祉概論		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	50%	0%	0%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
当事者への具体的な支援の事例を通して社会福祉における子ども家庭福祉の全体像を理解する
2. 授業の目標(検定取得など)
社会福祉の中で保育者がどのように関わるべきなのか考え、日々の保育に役立てる
3. 注意点・要望
施設実習を控える中で、社会福祉施設の役割と機能、その中で保育を想像できるようにしてほしい
4. 関連科目
保育士免許関連科目

週	テーマ	内容
1	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷
2	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷	社会福祉の歴史の変遷
3	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷	子ども家庭支援と社会福祉
4	社会福祉の制度と実施体系	社会福祉の制度と法体系
5	社会福祉の制度と実施体系	社会福祉行財政と実施機関
6	社会福祉の制度と実施体系	社会福祉施設
7	社会福祉の制度と実施体系	社会福祉の専門職
8	社会福祉の制度と実施体系	社会保障及び関連制度の概要
9	社会福祉における相談援助	相談援助の理論
10	社会福祉における相談援助	相談援助の意義と機能
11	社会福祉における相談援助	相談援助の対象と過程
12	社会福祉における相談援助	相談援助の方法と技術
13	社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み	情報提供と第三者評価
14	社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み	利用者の権利擁護と苦情解決
15	社会福祉の動向と課題	少子高齢化社会における子育て支援
16	効果測定	効果測定

備考	
----	--

こども学科	1年
-------	----

【後期】

科目	教育心理学	分類	専門、必修科目
担当	杉山 剛		
テキスト (出版社)	教育心理学(近畿大学九州短期大学)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	50%	0%	0%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
乳児期から青年期にかけての人間の精神および知能の発達や人格形成などと教育の関係を取り上げる
2. 授業の目標(検定取得など)
教育過程の諸現象を心理学的に明らかにし、効果的な教育の方法を見つける
3. 注意点・要望
教育の場面に現れる問題を一般心理学の見地から解釈し、実際の教育に応用してほしい
4. 関連科目
教育関連科目、教育実習

週	テーマ	内容
1	心理学の誕生	心理学とは こころの仕組み 実験心理学 構成的心理学
2	人の一生1	心理学の研究テーマ 身体・運動能力の発達 社会性・情動・知的発達
3	人の一生2	脳が存在・しくみ・働きの特徴・痴呆・性役割
4	教育心理学の学習	「興味」こそ学習の原動力 「おもしろい」とは 齢代 新しい能力観
5	勉強するとは1	学ぶ「概念」「表象」「ことば」筋道を立てて考える力 勉強の仕方を知る
6	勉強するとは2	エビングハウスの忘却曲線 勉強へのエネルギー 感覚運動的段階 ものの永続性
7	ことばの発達	ことばとは 記号 前概念 概念の学習 ことばの発達 言語獲得の相互作用説
8	思考の発達	前操作的思考 動作・映像・象徴的表象 知的能力の転換期 概念のヒエラルキー
9	具体的操作から形式的操作	感覚運動から具体的操作知能へ 保存 具体的操作から形式的操作へ
10	子どもは変わる	思考・行動の変化 連合説 認知説 窓枠論 同化と調節
11	学習へのエネルギー	成立条件 「ズレ」の問題 内発的動機づけ 態度の影響 価値観の形成
12	記憶のメカニズム	記憶の3つの過程 忘却の起こり方 記憶の保存
13	知能と教育	知能の測定 正しい発達理論 標準テストの条件 テスト技法 教育の評価
14	子どもの悩み	楽しくない 学校恐怖症 いじめ
15	個性をつくる教育	オーストラリアでの教育 個性と教育
16	性格研究	教育心理学における性格の研究
17	科目終末試験対策	科目終末試験対策

備考	日本教育心理学会所属の教員が、その経験や諸論文をもとに指導を行う。
----	-----------------------------------

こども学科	1年
-------	----

【前期】

科目	教育原理	分類	専門、必修科目
担当	生越 雅志		
テキスト (出版社)	教育原理(近畿大学九州短期大学)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	25%	25%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
教育の本質と意義を理解し、教育に関する基礎的な概念と知識の習得をはかり、子ども家庭福祉等との関りについて理解する
2. 授業の目標(検定取得など)
教育者・保育者として、子どもへの具体的対処、解決方法を幅広く柔軟な視野で自分なりに考え実践していくための能力を培う
3. 注意点・要望
より多くの教育観を学び、様々な価値観を許容できる寛容さを身につけてほしい
4. 関連科目
教育関連科目、教育実習

週	テーマ	内容
1	教育の意義、目的及び子ども家庭福祉との関連性	教育の意義
2	教育の意義、目的及び子ども家庭福祉との関連性	教育の目的
3	教育の意義、目的及び子ども家庭福祉との関連性	乳幼児期の教育の特性
4	教育の意義、目的及び子ども家庭福祉との関連性	教育と子ども家庭福祉の関連性
5	教育の意義、目的及び子ども家庭福祉との関連性	人間形成と家庭・地域・社会等との関連
6	教育の思想と歴史の変遷	諸外国の教育の思想と歴史
7	教育の思想と歴史の変遷	日本の教育の思想と歴史
8	教育の思想と歴史の変遷	子ども観と教育観の変遷
9	教育の制度	教育制度の基礎
10	教育の制度	教育法規・教育行政の基礎
11	教育の制度	諸外国の教育制度
12	教育の実践	教育実践の基礎理論(内容・方法・計画と評価)
13	教育の実践	教育実践の多様な取り組み
14	生涯学習社会における教育の現状と課題	生涯学習社会と教育
15	生涯学習社会における教育の現状と課題	現代の教育課題
16		

備考	
----	--

こども学科	1年
-------	----

【後期】

科目	社会的養護 I	分類	専門、必修科目
担当	津田 聡子・杉山 剛		
テキスト (出版社)	社会的養護 I		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	50%	0%	0%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
社会的養護の意義と歴史の変遷をつかみ、社会的養護の基本を理解し、保育士の視点でどのように子どもを養護すべきか学ぶ
2. 授業の目標(検定取得など)
子ども、家庭の現実を把握し、保育士としての任務を遂行できるようにする
3. 注意点・要望
様々な事例を調べ、保育士がすべき対処法をできるだけ多くつかんでほしい
4. 関連科目
福祉関係科目、施設実習、保育所実習

週	テーマ	内容
1	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷	社会的養護の理念と概念
2	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷	社会的養護の歴史の変遷
3	社会的養護の基本	子どもの人権擁護と社会的養護
4	社会的養護の基本	社会的養護の基本原則
5	社会的養護の基本	社会的養護における保育士等の倫理と責務
6	社会的養護の制度と法体系	社会的養護の制度と法体系
7	社会的養護の制度と法体系	社会的養護の仕組みと実施体系
8	社会的養護の対象・形態・専門職	社会的養護の対象
9	社会的養護の対象・形態・専門職	家庭養護と施設養護
10	社会的養護の対象・形態・専門職	社会的養護に関わる専門職
11	社会的養護の現状と課題	社会的養護に関する社会的状況
12	社会的養護の現状と課題	施設等の運営管理
13	社会的養護の現状と課題	被措置児童等の虐待防止
14	社会的養護の現状と課題	社会的養護と地域福祉
15	社会的養護のあるべき姿	加害・暴力・虐待の実際 小規模化の養育体制 社会的養護の地域化
16	社会福祉と社会的養護	2年次福祉系科目への導入
17	効果測定	効果測定

備考	
----	--

こども学科	1年
-------	----

【前期】

科目	教職概論	分類	専門、必修科目
担当	生越 雅志		
テキスト (出版社)	教職入門(萌文書林)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	25%	25%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
保育者の役割と倫理について理解し、専門性を考察しながら資質向上とキャリア形成を目指す基礎を学ぶ
2. 授業の目標(検定取得など)
制度的な位置づけを考えながら、保育者の要件・資質・能力を満たし、保育者同士で連携・協働する志を育む
3. 注意点・要望
できるだけ多くの事例を学び、対応能力をつけてほしい
4. 関連科目
教育関連科目、教育実習

週	テーマ	内容
1	教育とは何か	なぜ教育が必要か 乳児期、幼児期、少年期
2	教職とは何か	教職に就くとは
3	教育史1	日本における教師の歴史(大正期まで)
4	教育史2	日本における教師の歴史(戦時下、戦後)
5	現代社会の子ども	現代が抱える子どもの問題点 優れた点
6	遊びを中心とした教育	幼稚園・保育所・認定こども園の生活と遊び
7	小学校での学習と専科教員	卒園後のイメージから、ねらいを考える
8	学校に関わりを持つ人々	教職以外に、学校を支えてくれる人々
9	カウンセリングマインド	子どもや保護者との会話における留意点
10	教師をめぐる新しい動き	様々な取り組みの中での今後の動向
11	教師をめぐる法律	教育に関する様々な法知識
12	教育改革とこれからの教師	教育改革の中で求められる教師像
13	教職の理想と現実	教育の理想と現実の狭間で考えるべきこと
14	教職の専門性と研修	教職の専門性を高める研修とは
15	教職者としての自己啓発	どのような形でアンテナを張り、保ち、与えるか
16		

備考	
----	--

こども学科	1年
-------	----

【後期】

科目	教育方法論	分類	専門、必修科目
担当	生越 雅志		
テキスト (出版社)	幼児教育の方法(北大路書房)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	25%	25%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

適切な保育指導を行うために、保育現場で求められている保育者の資質・役割を理解する

2. 授業の目標(検定取得など)

乳幼児の実態に目を向け、幼児理解に努め、保育者としてどのような願いを持ち、どのように援助していくか考える

3. 注意点・要望

様々な指導法がある中で、自分のやりたい保育の指導法は何か模索してほしい

4. 関連科目

保育士免許関連科目

週	テーマ	内容
1	イギリスの楽しい幼稚園	登園 日系のソフィ コーナー保育 命令・号令のない保育
2	アクティビティ 遊びの心	保育＝アクティビティという考え方 幼児教育の先哲 遊びと保育
3	幼児教育研究者	ピアジェ ハント ケネディ 知能は遺伝か ヘッドスタート計画 やる気
4	子どもはキャッチボールで育つ	情動的な相互交渉 物とのやりとり 情報・物質・エネルギー
5	キーワードを理解する	「環境」と「経験」「経験」と「相互作用」「応答」と「援助」
6	自ら学ぶところ 発達を促す保育	心理学の謎 「ズレ」の問題 知能は伸びる 第5グループの子どもたち
7	豊かな環境とはどんな環境なのか	感覚と運動はどちらが大切か 変化に富んだ環境
8	応答的保育とは 環境を分析する	支援者としての保育 最適水準のズレ 保育の物理的環境、人口環境等
9	知性の源流をさぐる	知的教育か情操教育か 乳幼児期の教育とは何か
10	保育のランドマークを知る	表象のランドマーク 表象の成立をテストする 前概念
11	ことばを伸ばす ことばによる応答	ことばの働き 言語教育プログラム 「発問」「過程」「受容」 園と家庭
12	ことばと心の応答	子どもの心が見えるか 新任保育者の応答訓練
13	遊びの発生	TVゲームとカラオケ 物と遊びの源流 協応とは
14	遊びとおもちゃの応答性	園で遊ぶおもちゃの応答 遊びと心の応答 保育における遊び
15	援助と応答	援助と指導の比較 活動と援助 援助と応答 応答的保育
16	幼稚園の園だより	事例研究
17		

備考	
----	--

こども学科	1年
-------	----

【前期】

科目	保育の計画と評価	分類	専門、必修科目
担当	津田 聡子		
テキスト (出版社)	必要に応じて、資料を配布		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画(意義と方法の理解)及び評価(子どもの理解に基づく保育の過程の理解)について学ぶ
2. 授業の目標(検定取得など)
後期からの保育実践演習に向けて、保育の視点・記録・評価を学び、指導計画を作成する力を養う
3. 注意点・要望
1階の保育室に入るのので、健康管理とマナーに注意してほしい。メモも最小限にとどめて記憶し、教室に戻ってから再現する力をつけてほしい。
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	保育の計画と評価の基本	保育園での観察実習
2	保育の計画と評価の基本	現役保育者との対談
3	保育の計画と評価の基本	子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の循環による保育の質の向上
4	保育所における保育の計画	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容及び社会的背景
5	保育所における保育の計画	保育の目標と計画の基本的考え方
6	保育所における保育の計画	保育の目標と計画の基本的考え方
7	保育所における保育の計画	指導計画に向けた発達の理解と子ども理解
8	保育所における保育の計画	指導計画に向けた発達の理解と子ども理解
9	保育所における保育の計画	指導計画作成上の留意事項
10	保育所における保育の計画	指導計画作成上の留意事項
11	保育所における保育の計画	年間指導計画、月の指導計画について
12	保育所における保育の計画	週、日の指導計画について
13	保育所における保育の計画	指導計画の作成
14	保育所における保育の計画	保育の質向上に向けた改善の取組
15	保育所における保育の計画	生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録
16		

備考	公立保育士として勤務経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。
-----------	------------------------------------

こども学科	1年
-------	----

【前期】

科目	保育内容総論(前期)	分類	専門、必修科目
担当	津田 聡子		
テキスト (出版社)	必要に応じて、資料を配布		
参考資料	保育所保育指針		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要									
保育所保育指針から保育の全体的な構造をつかみ「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「保育の内容」の関連を理解する									
2. 授業の目標(検定取得など)									
子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷を踏まえ、保育内容を発達や実態に即した形にできる									
3. 注意点・要望									
授業で配布した資料全てを全授業で持参すること。									
4. 関連科目									

週	テーマ	内容
1	ガイダンス / アイスブレイキング・コミュニケーション ①	当授業の概要、進め方、注意点、要望などについてのガイダンス。受講生、担当教員も含めた自己紹介、情報交換 他。
2	アイスブレイキング・コミュニケーション ②	身体運動を伴うアイスブレイキングおよびコミュニケーションゲームを行い、心と体をほぐす重要性を経験し、学習する。
3	発達を学ぶ	保育の基本と理解 ~3ヶ月未満 身体と情緒の発達 抱っこ演習
4	発達を学ぶ	保育の基本と理解 ~6ヶ月未満 身体と情緒の発達 おんぶ演習
5	発達を学ぶ	保育の基本と理解 ~1歳 身体と情緒の発達
6	発達を学ぶ	保育の基本と理解 ~2歳 身体と情緒の発達
7	発達を学ぶ	保育の基本と理解 ~3歳 身体と情緒の発達
8	発達を学ぶ	保育の基本と理解 3歳以上 身体と情緒の発達
9	発達を学ぶ	保育の基本と理解 3歳以上 身体と情緒の発達
10	発達を学ぶ	玩具ごとの発達に合わせた遊び
11	発達を学ぶ	玩具ごとの発達に合わせた遊び
12	摂食について	原始反射・摂食について学ぶ。 咀嚼、嚥下演習
13	離乳食について	乳児期の機能の発達と食形態について学ぶ。 2階保育室、給食室見学。 実食演習
14	睡眠・休息、着脱について	睡眠の必要性と体内リズムについて
15	排泄について	排泄の自立
16		

備考	公立保育士として勤務経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。
----	------------------------------------

こども学科	1年
-------	----

【後期】

科目	保育内容総論(後期)	分類	専門、必修科目
担当	津田 聡子		
テキスト (出版社)	必要に応じて、資料を配布		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要									
保育所保育指針から保育の全体的な構造をつかみ「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「保育の内容」の関連を理解する									
2. 授業の目標(検定取得など)									
子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷を踏まえ、保育内容を発達や実態に即した形にできる									
3. 注意点・要望									
授業で配布した資料全てを全授業で持参すること。									
4. 関連科目									

週	テーマ	内容
1	保育の全体構造と保育内容	保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解
2	保育の全体構造と保育内容	総合的な指導の必要性
3	保育の全体構造と保育内容	子どもの発達や生活に即した保育の内容の基本的な考え方
4	保育の基本を踏まえた保育内容の展開	環境を通して行う保育
5	保育の基本を踏まえた保育内容の展開	子どもの主体性を尊重する保育
6	保育の基本を踏まえた保育内容の展開	遊びを通しての保育者の役割
7	保育の基本を踏まえた保育内容の展開	3歳児の発達の特徴と保育内容
8	保育の基本を踏まえた保育内容の展開	4歳児の発達の特徴と保育内容
9	保育の基本を踏まえた保育内容の展開	5歳児の発達の特徴と保育内容
10	保育の基本を踏まえた保育内容の展開	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について
11	保育の多様な展開	特別な配慮を要する子どもの保育
12	保育の多様な展開	特別な配慮を要する子どもの保育
13	授業のまとめ	当該授業の概要を復習し現場学習につなげる
14	近隣保育園 学外学習	近隣保育園にて現場学習 現場学習からの気づきについて話し合い
15	近隣保育園 学外学習	近隣保育園にて現場学習 現場学習からの気づきについて話し合い
16	近隣保育園 学外学習	近隣保育園にて現場学習 現場学習からの気づきについて話し合い
17	近隣保育園 学外学習	近隣保育園にて現場学習 現場学習からの気づきについて話し合い

備考	公立保育士として勤務経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。
-----------	------------------------------------

こども学科	1年
-------	----

【前期】

科目	マナー講座	分類	教養、必修科目
担当	長崎 佐由利		
テキスト (出版社)	秘書検定 クイックマスター2級(早稲田教育出版)		
参考資料	授業で配布するプリント		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	30%	0%	50%	20%	100%		

1. 授業の概要

秘書技能検定2級の学習を通して、社会人の基本となるマナーや敬語表現などを習得する

2. 授業の目標(検定取得など)

秘書検定 2級

3. 注意点・要望

毎時間プリント(A4サイズ)を配布しますので、各自ファイリングできるよう準備をしてください
蛍光ペンを必ず用意してください(重要力所にチェックするため)

4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	マナー・接遇1	オリエンテーション、敬語、接遇用語、人間関係と話し方、聞き方、断り方
2	マナー・接遇2	指示の受け方、報告の仕方、依頼・説得の仕方、忠告の仕方・受け方
3	マナー・接遇3	電話対応、来客対応
4	マナー・接遇4	慶事・パーティのマナー
5	マナー・接遇5	弔事のマナー、贈答・見舞いのマナー
6	技能1	会議の知識、社内文書、社外文書、グラフの書き方
7	技能2	受信文書の取り扱い、郵便の知識と通信
8	技能3	スケジュール管理、オフィスのレイアウト管理
9	一般知識1	カタカナ用語
10	一般知識2	略語
11	必要とされる資質	秘書としての心構え、求められる人柄、機密保持
12	職務知識	秘書の機能と役割、秘書の業務
13	過去問題演習1	秘書検定2級過去問題演習
14	過去問題演習2	秘書検定2級過去問題演習
15	過去問題演習3	秘書検定2級過去問題演習
16	過去問題演習4	秘書検定2級過去問題演習

備考	
----	--

こども学科	1年
-------	----

【後期】

科目	現場学習	分類	専門、必修科目
担当	中川 菜穂・津田 聡子・三田 麻矢佳		
テキスト (出版社)	なし		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	20%	30%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
姉妹園にてジョブシャドウイングや行事の手伝い、体験実習などを行い保育を実践的に学ぶ
2. 授業の目標(検定取得など)
子どもや保育の仕事や職種に関する理解を深める
3. 注意点・要望
実習にふさわしい身だしなみをする
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	現場学習に向けての準備	グループディスカッション 現場学習に必要なものの制作
2	現場学習に向けての準備	グループディスカッション 現場学習に必要なものの制作
3	現場学習	保育園の現場学習を通して子どもの興味関心を学ぶ
4	振り返り	グループディスカッション
5	現場学習に向けての準備	グループディスカッション 現場学習に必要なものの制作
6	現場学習に向けての準備	グループディスカッション 現場学習に必要なものの制作
7	現場学習	幼稚園現場学習を通して子どもの興味関心を学ぶ
8	振り返り	グループディスカッション
9	現場学習に向けての準備	グループディスカッション 現場学習に必要なものの制作
10	現場学習に向けての準備	グループディスカッション 現場学習に必要なものの制作
11	現場学習	幼稚園現場学習を通して子どもの興味関心を学ぶ
12	振り返り	グループディスカッション
13	現場学習に向けての準備	グループディスカッション 現場学習に必要なものの制作
14	現場学習に向けての準備	グループディスカッション 現場学習に必要なものの制作
15	現場学習	保育園の現場学習を通して子どもの興味関心を学ぶ
16	振り返り	グループディスカッション

備考	幼稚園・保育園にて保育経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。
----	-------------------------------------

こども学科	1年
-------	----

【前期】

科目	英会話	分類	教養、必修科目
担当	鳥居 高之・稲村 祥江		
テキスト (出版社)	英会話 I (近畿大学九州短期大学)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

社会のグローバル化に伴い、国際結婚も年々増加している中、保育者として簡単な英会話の教養を身につける

2. 授業の目標(検定取得など)

日常、特に保育の現場で簡単な英語での会話ができるようにする

3. 注意点・要望

英会話は楽しむのが一番です！

4. 関連科目

--

週	テーマ	内容
1	会話の基礎1	文の構造 時制
2	会話の基礎2	文の種類 前置詞
3	会話の基礎3	接続詞 問題
4	会話の基礎4	もっとBRUSH UP しましょう 英文を読んでみましょう
5	保育英語の基礎1	会話基本文
6	保育英語の基礎2	会話基本動詞
7	保育英語の基礎3	保育の英語
8	保育英語の基礎4	歌と遊戯
9	保育英語の基礎5	英文を読んでみましょう！
10	ENGLISH COMMUNICATION 1	HOW TO STUDY 自己紹介
11	ENGLISH COMMUNICATION 2	家族と友達 家と私の町
12	ENGLISH COMMUNICATION 3	余暇と休暇 テレビと映画
13	ENGLISH COMMUNICATION 4	食べ物と飲み物 人々
14	ENGLISH COMMUNICATION 5	行き先案内 旅行
15	ENGLISH COMMUNICATION 6	将来 補足

備考	
----	--

こども学科	1年
-------	----

【後期】

科目	造形表現(指導法)	分類	専門、必修科目
担当	小倉 正巳		
テキスト(出版社)	未定		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
様々なパターンの課題に取り組み自由にイメージやアイデアを膨らませて作品を仕上げながら、発想力、想像力を高める。
2. 授業の目標(検定取得など)
個人個人の想像する力を養いながら、子どもたちの表現したいイメージが感じ取れるようにする。
3. 注意点・要望
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	想像力ぬり絵	線画の何ヶ所が欠けている部分を想像して描きたし、ぬり絵を完成させる
2	貼り絵	自由に色を塗った紙を切り、台紙に貼り絵を完成させる
3	自分のロゴを作る	自分自身をアピールする名前のロゴを制作
4	自分のキャラクターを作る	自分自身をアピールする自分キャラクターを制作
5	ポケットの中身を想像する	ポケットを描きその中に何が入っているか、ポケットの柄と中身がシンクロするよう想像力を膨らませて絵を描く
6	三つのお題を絵にする	お題を三つ出し、それを元にストーリーが感じられる絵を描く
7	創造動物を作る	既存の動物と何かを合体させて新しい動物を想像する
8	想像イラストを描く	意味のない形から何かを想像して絵を描く
9	卵の中身	何の卵かをイメージして、その中から何が生まれるか想像して絵を描く
10	情景を想像して絵にする	用意した情景を読み、思いついたシーンを絵にする
11	想像力ぬり絵	クリスマスの朝のシーン、プレゼントの箱の中身を想像してぬり絵を完成させる
12	スクラッチ	テーマにそってアイデアを出し、スクラッチで絵を制作する
13	スパッタリング	厚紙で意味のない形を切り抜き台紙に置き、スパッタリングして現れた形からイメージして絵を描く
14	紙コップで人形を作る	紙コップに色紙などを貼り付け、人形を作る
15	好きな曲を絵にする	自分の好きな曲のイメージを絵にする
16	作品展見学	実際の現場の一年間の幼児の作品、作品展を見学する

備考	デザイン事務所における制作、フリーランスイラストレーターとしての活動経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。
----	--

こども学科	1年
-------	----

【前期】

科目	やってみなはれ演習 I	分類	教養、必修科目
担当	生越 雅志・三田 麻矢佳		
テキスト (出版社)	なし		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	20%	30%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
机上では学べないものを、自らの体験を通して学ぶ
2. 授業の目標(検定取得など)
保育現場で活かせるスキルの習得をめざし、記録に残す。
3. 注意点・要望
体験したものは、100シートにまとめ提出のこと。評価の対象となります。天候などにより一部内容が変わる場合があります。
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	ガイダンス	生き物の引継ぎ、100シートの説明・記入、3号館施設の確認
2	端午の節句	係決め、兜の飾り付け、折り紙、体験プログラム、
3	レクリエーション	
4	畑	畑づくりの基礎知識、土、畝、夏野菜、ゴーヤを植える
5	畑	育て方、害虫、収穫について
6	制作	パネルシアター作成
7	制作	パネルシアター作成
8	制作	パネルシアター作成
9	若幸祭の企画	若幸祭企画/姉妹園の説明
10	ボランティア	船橋市内のごみ拾い/パネルシアター作成
11	制作	パネルシアター作成
12	七夕	七夕飾りを作り、笹に飾る
13	長津川公園	ザリガニ釣りや花かんむり作りなど野原での遊びを学ぶ
14	着付け	浴衣の着付けなど/パネルシアター作成
15	着付け	浴衣の着付けなど/パネルシアター作成

備考	幼稚園・保育園の職員経験者の職員と共に、常に現場を意識した授業となります。
----	---------------------------------------

こども学科	1年
-------	----

【後期】

科目	やってみなはれ演習Ⅱ	分類	教養、必修科目
担当	生越 雅志・三田 麻矢佳		
テキスト (出版社)	なし		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	20%	30%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
机上では学べないものを、自らの体験を通して学ぶ
2. 授業の目標(検定取得など)
保育現場で活かせるスキルの習得をめざし、記録に残す。
3. 注意点・要望
体験したものは、100シートにまとめ提出のこと。評価の対象となります。天候などにより一部内容が変わる場合があります。
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	学園祭準備	若幸祭の企画を考える
2	学園祭準備	若幸祭の企画を考える
3	学園祭準備	若幸祭の企画を考える
4	学園祭準備	若幸祭の企画を考える
5	学園祭準備	若幸祭の企画を考える
6	学園祭準備	若幸祭の企画を考える
7	縁日ごっこの準備	2歳児が楽しめる企画をする
8	縁日ごっこの準備	2歳児が楽しめる企画をする
9	縁日ごっこの準備	2歳児が楽しめる企画をする
10	縁日ごっこの準備	2歳児が楽しめる企画をする
11	トレポンテ駅前保育園と縁日ごっこ	2歳児との交流
12	餅つき準備	餅つきについて学ぶ
13	お正月遊び	お正月について 凧あげ
14	研修合宿	研修合宿の詳細説明
15	お正月遊び	伝承遊びを楽しむ
16	節分	豆まき 歌ダンス

備考	幼稚園・保育園の職員経験者の職員と共に、常に現場を意識した授業となります。
----	---------------------------------------

